

平成30年度 セカンドステップ研修会（支部研修会）報告

日 時 平成30年9月29日（土）
会 場 弘前医療福祉大学
講 師 日本子どものための委員会
指導講師 石川 芳子 氏 ファシリテーター2名
参加者 17名

セカンドステップ教材コース1を使用して、約6時間の研修だった。「学びのスキル」「共感」「情動の扱い」「問題の解決」の4章構成、各章4～7、計25のステップについて2つのグループに分かれて実際に行った。

指導の手引きをもとに資料に従って行うことで、確実に実施できるだけでなく、高い効果が得られる内容だった。

参加者17名全員が「大変良い研修だった。このような研修の機会があれば、また是非参加したい。」という評価だった。

— 研修後のアンケートより —

【最も勉強になった内容は】

- ・学びのスキルの双眼鏡（集中するとき）
- ・教材の系統だった教え方がとても勉強になった。
- ・情動の扱い、問題解決ステップや授業の流し方がとても参考になった。
- ・情動の扱いや衝動コントロールと問題の解決の内容がとても参考になった。
- ・子どもたちにとても必要なスキルだと思った。年齢が低い小学校低学年から是非身につけさせてていきたい。
- ・「聞こえた人は手をあげて」だけでなく「肩にさわって」など、身体の様々な部分を使って確認を取ることや、問題解決ステップで何が問題で何ができるか考えるところが勉強になった。
- ・落ち着くステップでの落ち着き方の練習、問題解決ステップで自分で考え、何ができるか考えようで解決の仕方を見つけること。
- ・スキルがないからできない、だったらこのスキルを身につけよう、という点が共感できる。本校の1・2年生に実施していきたいと感じた。
- ・イライラしたときの対処法について、自分の気持ちを声に出したり、「止まれ」と言い聞かせたりすることで感情をコントロールすることができる学んだ。



- ・いかに、その時の自分の感情を落ち着いて相手に伝えるスキルを身につけるか…、焦ることなくゆっくりした時間の中で、他の職員と共に実行し学んでいきたいと思った。
- ・短時間の実施でも、繰り返して継続することがスキルアップにつながると再確認できた。
- ・子どもたちに向けてのアプローチ、進め方がとても勉強になった。すぐに実践していくと思う。



【今後の研修会・研修内容等の希望・要望】

- ・上級研修もやって欲しい
- ・同じような規模の研修をまたやって欲しい。疑問等をすぐ聞けて良かった。
- ・愛着障害に関する基本的な内容について。
- ・年齢の高い方やA D H D、自閉症児への応用の仕方。
- ・実践を積み上げて迷ったことや困ったことを持ち寄って参加できる研修会。

【感想など】

- ・実践したいと思った。学力との関連をまとめたいと思った。セカンドステップを子どもたちに教えていけば、どんなトラブルや困りごとも、指導者にとって「教材」になり得るし、場面指導も効果的にできると感じた。
- ・スキルの身に付いていない子どもたちに、是非教えてあげたいと思った。大人でも納得させられる部分がたくさんあった。
- ・実際に体験することで活用の仕方がイメージできたり、子どもの立場になって考えることもできて、楽しく学ぶことができた。
- ・双眼鏡や止まれ、私は○○な気持ち、など、すぐにでも実践できるものが多く、参考になった。
- ・実際学校で行う場合の時間の取り方や、実施後はどうなっているのかとか、中高生への実施状況を知りたいと思った。
- ・初めは簡単だと思ったが、最後は難しいと感じた。
- ・一般の子達に教えていくことで、社会のレベルが上がっていくと感じる。C S Pでもペアトレでもコンカレントプログラムでも教えていることは同じだと感じた。最後にたどり着くところは同じなのだと思った。

